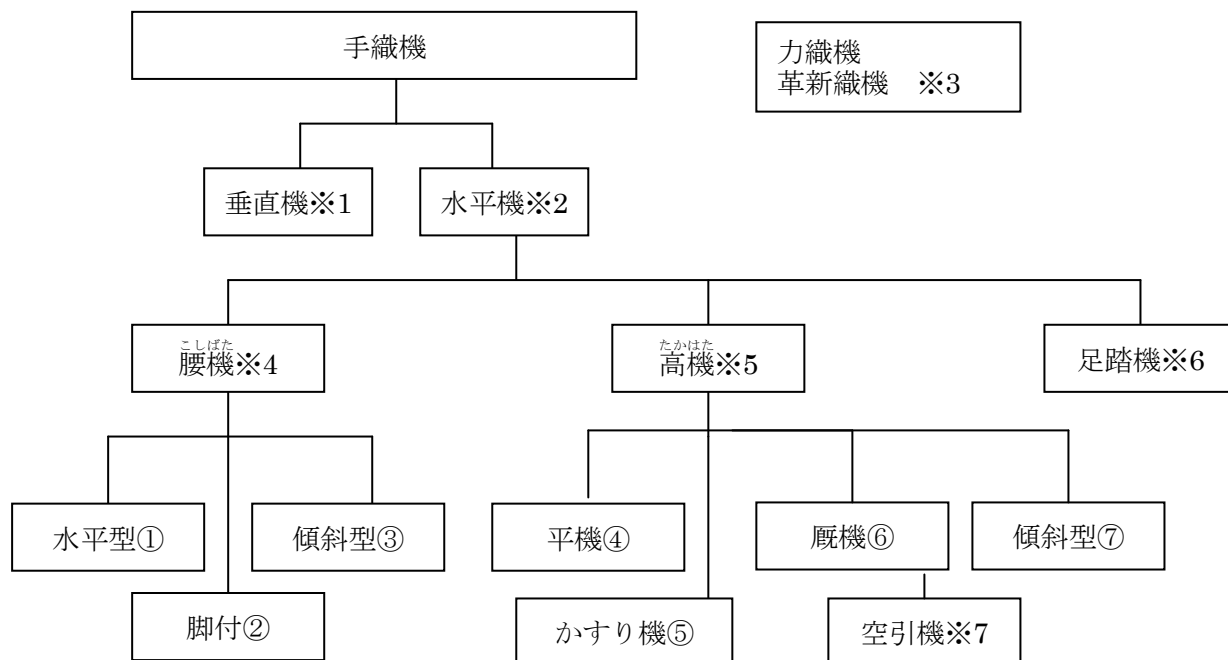


## 手織機の分類

手織機の分類は必ずしも統一されていませんが、ここでは型式上の特徴に着目した分類を示します。



力織機  
革新織機 ※3

※1 垂直機 通称「たてばた」、たて糸を垂直状態に張って織る織機で、現在は「じゅうたん」など、ごく一部のみ使用。例えば大阪府堺市地方の緞通機

※2 水平機 たて糸をほぼ水平に張って織る織機で、「たてばた」以外の織機をいう。

※3 力織機 革新織機 手織機に対してつけられた呼称で、電力、熱力、水力などを動力源とする織機をいう。また革新織機とはよこ糸入れ操作に水や空気の色を用い、従来の力織機とは著しく機構や生産性が異なる最近の織機をいう。

※4 腰機 「いざりばた」「地ばた」「下ばた」「神代ばた」などともいう。腰でたて糸を張り、足首にからめた綱でたて糸の開口を操作して織る。

①水平型 機の腰桁が水平で地面に接し、織り手の座位置がほぼ床上にある機。例えば新潟県小千谷地方の腰機など。



垂直型



腰機 水平型

② **脚付** 機台が短い脚を有する腰機で、織手は低椅座位で作業する。機の腰桁が緩い傾斜を持つ場合が多い。例えば茨城県結城地方の腰機など。

③ **傾斜型** 機台の腰桁が男巻側に向かって顕著に上向いている機。傾斜角度は地域などでかなり異なる。例えば滋賀県愛知郡の腰機など。

※5 **高機** 「長ばた」「大和ばた」「京ばた」などともいう。織り手の位置などが腰機より高いのでこの名がある。腰機の次に登場した代表的な手織機である。

④ **平機** 最も一般的な高機で、型式や大きさも様々である。ここでは「かすり機」「厩機」以外の高機を総称する。

⑤ **かすり機** かすり糸と地糸を別々の男巻に巻く、すなわち二重男巻方式の機である。専らかすり織物の織に使用する。たとえば奄美大島の高機など。

⑥ **厩機** 四本柱の上端に長方形の枠を有する形状の機で、厩舎に似ていることから「うまやばた」と呼ぶ。例えば新潟県塩沢地方の高機など。

⑦ **傾斜型** 腰機の傾斜型に類似しているが、布巻き具が機台に固定されていることから高機とされる。白山麓の高機など。

※6 **足踏機** 足踏み動作によって機械の全動作を行なう織機である。高機の次に登場したが、まもなく力織機が登場した為あまり普及はしなかった。

※7 **空引機** 「そらびきばた」と呼ぶ。ジャカード機の出現以前に使われた紋織機で、一般の高機の上部に天神と呼ぶ鳥居を設け、そこで人(紋引き手と呼ぶ)が柄出し操作をする。

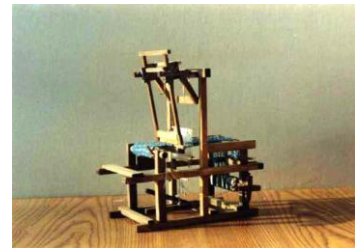
第60回繊維博物館特別展「日本のわざー組む・結ぶ・織るー」(2003)に一部加筆し転載。



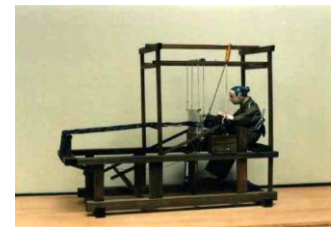
腰機 脚付



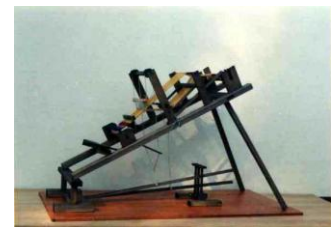
腰機 傾斜型



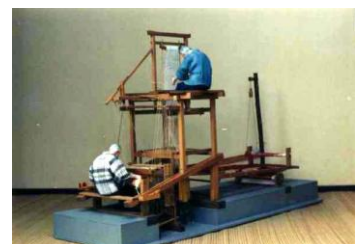
高機 かすり機



高機 厩機



高機 傾斜型



空引機